

夏季休業中の学校図書館開放について

1 ねらい

小・中学校において、夏季休業期間も学校図書館を開放することで、児童・生徒が読書活動等に積極的に取り組んだり、学習したり、安全・安心な居場所として利用したりできるようにする。

2 対象

小学校 18校、中学校 9校 計27校

※地域開放型学校図書館を併設しているみなみの小学校、美鳩小学校、中野第一小学校の3校は昨年度より別に開放している。

3 実施形態

○開放日数 … 8月中の平日12日間 ※1校は校内工事のため8日

○指導員 … 業務委託事業者からの派遣指導員。(うち14校は学校図書館指導員が兼業)

4 利用人数

	合計	1校あたり平均	1日1校あたり平均
小学校	1254人	約70人	約5.8人
中学校	302人	約34人	約2.8人
合計	1556人	約58人	約4.8人
(参考) 地域開放型学校図書館	1010人	約337人	約11.7人

※学校図書館開放は12日間、地域開放型学校図書館は29日間開館

5 貸出冊数

	合計	1校あたり平均	1日1校あたり平均
小学校	2446冊	約136冊	約11.3冊
中学校	374冊	約42冊	約3.4冊
合計	2820冊	約104冊	約8.7冊
(参考) 地域開放型学校図書館	427冊	約142冊	約4.9冊

※学校図書館開放は12日間、地域開放型学校図書館は29日間開館

6 「読書・学習スペース」としての利用例

(1) 小学校

- ・読書や貸出・返却を行う児童がいた。
- ・読書好きの児童が定期的に来館した。
- ・夏休みの課題や学習に取り組んでいた。
- ・学校図書館で資料やiPadを活用して自由研究に取り組んでいた。
- ・読書感想文を書くための本を探し、図書館支援員に相談しながら取り組んだ。
- ・キッズプラザに来ている児童が来館し、読書の時間に活用した。
- ・親子で来館し、一緒に本を探したり、読書をしたりしていた。
- ・連携校の中学生のボランティアが来校し、学習支援を行った。
- ・担任と個別学習に取り組んだ。

## (2) 中学校

- ・自習スペースとして受験勉強や夏休みの課題に取り組んでいた。
- ・夏休みの課題に、図書館の本で調べながら取り組んでいた。
- ・分からないことは図書館指導員や職員室にいる教員に質問できるため、安心感をもって学習や読書感想文等に取り組んでいた。
- ・普段は部活動等でなかなか図書館で本を読む時間がない生徒が、ゆっくりと読書を行った。
- ・利用している生徒同士が、図書館指導員を交えて本の話に興じた。
- ・部活動の前後で来館し、宿題や学習に取り組んでいた。
- ・定期的に本の貸出・返却に来館した。

## 7 「居場所」としての利用例

### (1) 小学校

- ・配慮が必要な児童が来館し、教員とコミュニケーションを取れたことで、休み明けの円滑な登校につながった。
- ・不登校傾向の児童が来館し、担任と関わる場となった。
- ・友達と一緒に来館し、本を読んだり、学習をしたりしていた。
- ・兄弟で来室し、水泳指導や学習教室に参加している間の居場所として活用していた。
- ・保護者が外出する間や仕事に行っている間、居場所として使用していた。
- ・図書館指導員と会話をする場面が多く見られた。
- ・キッズプラザや学童クラブの児童が居場所の一つとして過ごした。

### (2) 中学校

- ・定期的に来館することで、生活リズムを整えていた。
- ・家庭で過ごしづらい生徒が自分の時間を楽しむため来館していた。
- ・図書館指導員とコミュニケーションを取る目的で来館していた。

## 8 成果と課題

- 8月中に2800冊以上の本の貸出が行われたり、図書館で読書に取り組む児童・生徒がいたりするなど、読書活動の奨励につながった。
- のべ1500人以上が来館するなど、読書や学習に取り組む場や居場所となった。また、今までは夏季休業中の自習スペースを開放するために教員が分担して見守りを行っていたが、学校図書館開放と自習スペースを組み合わせることで、教員の負担軽減にもつながった。
- 家庭環境に課題のある児童・生徒や一人で過ごすことが好きな児童・生徒の居場所となった。
- 不登校傾向や課題のある児童・生徒と教員が夏季休業中にコミュニケーションをとる場となり、情報を共有したり、夏季休業明けの円滑な登校につながった。
- 普段、学校図書館の利用が少ない児童・生徒が、本を借りたり、新刊をリクエストしたりするようになった。
- 教職員自身も夏季休業中に図書館を利用し、読書をしたり、児童や生徒と交流したりすることができた。
- 子どもたちが図書館指導員とゆっくり関わることができ、さらに安心感をもつことができ、9月以降の学校図書館の利用や居場所活用につながった。
- 今後も、継続実施することで、児童・生徒に取組が浸透し、活用の充実が期待される。
- 指導員が異なる場合は、夏休みの学校図書館利用のルール of 徹底や引き継ぎが難しかった。
- 突然の天候の悪化等、何かあった際に、児童・生徒を帰宅か待機か等の判断は図書館指導員では難しい。
- 来館・帰宅時の安全（登下校、熱中症、体調不良等）について、学校図書館なので保護者は学校に期待していると思われるため、その対応について検討する必要がある。
- 普段、学校に関わっている図書館指導員が夏季休業中も従事できると、居場所機能としてはより効果的であった。
- 工事の関係で日程を十分に確保することができない学校があった。
- 今後、夏季休業中の学校図書館開放を学校の学校図書館経営計画にどう位置付けていくかという課題が出てきた。